

製品取扱説明書

【用途】 コンクリート・モルタル、天然・人工石、ブロック、レンガ、タイル
目地等の劣化防止・白華防止、表層保護、防湿、防汚に用いる。

1. 一般名 無機質浸透・反応性、劣化・吸水防止撥水剤
2. 規格 社内規格
3. 特徴 ハイドロ・スカイSKY-HXは、コンクリート、モルタル面に塗布含浸すると毛細管空隙等に深く浸透し、コンクリート、モルタル中の遊離アルカリと化学反応を起こす。更に表層部を強化し、その反応生成物（結晶）は疎水性物質に変化、撥水性を持った新しい化合物となります。この結晶が 0.4mm幅以下のヘアークラックからの漏水も防止する。
- コンクリートに通常2～5mm程度浸透しますが（対象物の密度と経年による）その大部分に通気性のある撥水層を作り、吸水防止効果を発現するもので、造膜して防水効果を出すものとは特に耐久性については顕著な差があり更に通気性も保持しています。まさにハイブリッド化により施工用途が拡大されました。

株式会社ハイドロ・スカイ

製造・販売元 〒130-0002 東京都墨田区業平4-11-9

URL: www.hydro-sky.co.jp

E-mail: hydro@hydro-sky.co.jp



TEL.03-5637-8834 FAX.03-5637-8874

HYDROSKY SKY-HX



GHSラベル要素
絵表示又はシンボル:



4. 一般性状

項目	内容
主成分	アルカリ金属塩＋珪酸化合物＋シラン系化合物
容 姿	1液性
荷 姿	20kg入り・2kg入り(18kg入りは廃番となります)
色 相	無色透明又は半透明液体
光 沢	なし
比 重	1.01～1.12 (20℃)
粘 度	3mPa・s 以下
溶 媒	水
P H	10.0～12.0 (強アルカリ性)

6. 施工上の注意

- 珪酸塩系ですので施工前に下地を湿らせます。
- 施工場所以外にハイドロ・スカイが付着した部分はすぐに濡れたウエス等で拭き取って下さい。
- 施工面が50℃以上の場合は、たっぷり水をかけて冷やすか日陰部分から塗布して下さい。
- 冬、施工時が常温であっても夜間に0℃以下になる場合は施工直後に強制乾燥を行って下さい。
- 塗布面のオイル・グリース・離型剤等を取り除く事ができない場合はその周辺より浸透させてください。
- 塗布方法は特に選びません。躯体に充分含浸させることが重要です。
- 塗布後の余剰分や残留分は、必ずよく洗った布で拭き取ってください。拭き取りが不十分の場合、材質によっては白い斑点が出る場合があります。開封後は速やかに使い切ってください。
- 開封後は速やかに使い切り、残剤は容器中の空気と化学反応を起こすので、短期的保存の場合は水分・ゴミ等が混入しない様にして小さい容器に移し替え、内部の空気を少なくし密封、子供の手の届かない所に保管して下さい。また特に使用残分を元の容器に戻さないで下さい。
- 万一、目に入った場合は大量の水で洗い、医師に相談するようお願い致します。
- 0℃以下での保存及び施工は行わないで下さい。
- 凍結した材料の使用しないで下さい。

5. 塗装基準

項目	内 容
洗 浄	新設、補修工事とも塗布面の洗浄を行う。
養 生	施工面以外、飛散の恐れのある所は、基本的に養生をする。特にガラス、アルミ、植栽等に付着しない様、出来る範囲で行う。
塗 布	一般的な塗布量は 0.12～0.25kg/m ² だが防水目的の場合はこの限りではない。ローラー、ハケ、噴霧器で塗布。施工面にグリースや油、塗料の一部などが固着していても機能上問題がなければ塗布可能。
乾 燥	乾燥養生が長い程、強度が増す。

7. 関連法則

危険物表示	該当無し
溶剤区分	無機溶剤
有害物質表示	該当無し
劇物表示	非該当

8. 使用上の注意〔警告〕

特別危険性はなく施工上の注意を厳守。

9. F☆☆☆☆について

「フォースター」の表示は、塗料や内装材、建材で、「ホルムアルデヒドの放散量の性能区分を示す為に新たに表示する義務が定められたものです。F☆☆☆☆(Fフォースター)は、JIS工場で生産されるJIS製品に表示することが義務づけられているホルムアルデヒド等級を示すマークです。

ハイドロ・スカイは塗料ではなく、水性無機化合物の劣化保護及び防水剤です。有害化学物質に指定されたシロアリ駆除剤のクロルピリホス及び、シックハウス症候群に関するホルムアルデヒド・トルエン・キシレン・エチルベンゼン・スチレンの1+5種類を有害規制薬物に指定。従って有機化合物であるホルムアルデヒドは含まれていないため F☆☆☆☆に該当しません。

10. VOCについて

VOCとは、Volatile Organic Compounds の略で揮発性有機化合物のことをいいます。WHOでは大気中に気体で存在する有機化合物のうち、沸点が50℃～260℃の物質の総称と定義されています。

上記有機溶剤に関しては非該当です。